

留学生の日本語力を高めるために

『「大学生」になるための日本語』を使用して

2011年2月12日 於 凡人社麴町店

岡山大学大学院
社会文化科学研究科

大阪産業大学教養部

堤 良一

長谷川哲子

本書の概要・目的・理念

・ひつじ書房房主 松本功氏より

本書の構成

- ・目次、扉

各課で扱うトピック、分野、機能、文型、
タスクが一目で見渡せるように提示
→ モジュール的な使用も可能

- ・機能索引

文型を知識として提示するだけでなく、
運用面を意識してもらう
(文型とタスクの融合)

各課の構成

●扉

●語彙

- ・1巻:「ここでの主な言葉」

これだけは覚えよう: 語彙、文法、便利な表現
本文の前: 単語の確認をしてから読解本文へ

- ・2巻:「ここでの語彙」

本文の後: 単語の予習は自習を前提とする

●本文

- ・書き下ろし文ではなく、新書、新聞、一般書等から採録(詳しくは後述)

●入試問題対策

▪読解本文の内容確認

大学進学をめざすという意識の喚起

●文法問題

▪解答

あるタスク遂行に用いられる文型は唯一とは限らない。類似表現や異なる表現等、できるだけいろいろな表現に触れることが望ましい。

▪イラスト

各文型に必ず一つは、解答の手助けとなるようなイラストをつけた。

(イラストは、学生に概して好評)

●読む・聞く

・読解内容

「中級だから、2級／N2レベルだから」という手加減をしない。

・聴解問題

1)文法リスニング

文型を重視

2)タスクリスニング

タスク・内容を重視

自然発話に近い内容

●話す、書く

- ・タスクの遂行が目的
- ・タスクが遂行されていれば、使う表現は、その課で扱った文型でなくともよい（「解答」はつけていない）

●ロールプレイング

- ・その課で扱った文型を使って遂行するタスク

本書の特色

●読解本文の選定

- ・書き下ろさない
- ・「中級」だから「中級のトピック」を与えるのではない
- ・大学での専攻分野に関連するもの
アカデミックな世界への導入
斯界の著名人の著作
特定の文型を求めて文章を探さない
(結果的に、おおよそ2級／N2文型をカバー)

●課の配列

- ・1巻と比べて、2巻のほうが、読解本文が難しめになるように配列

●原文著者

・1巻

竹内薫、香山リカ、影山太郎、吉岡忍など

・2巻

門倉貴史、山田詠美、内田樹、福岡伸一、
茂木健一郎など

付属CDの内容

●文法リスニング

[第1課 聞く(Tr2~/p.35)]

●タスク

[第7課タスク1(Tr29/p.172)]

あらかじめ厳密なスクリプトを作成していない。場面やタスクを提示し、それに応じて即興で俳優・声優さんたちに話してもらったもの。

まとめ

- 大学進学をめざす学生にぜひ身につけてほしいことは？
 - ・ 文型、表現、語彙
 - ・ トピックに対する知的な態度
 - ・ 「大学生」になるために